

報道機関各位

結核集団感染事例の発生について

市内において、結核(2類感染症)の集団発生(※参考1)がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づき、お知らせいたします。

1 概要

○令和7年5月～6月に、高齢者施設の入所者(患者A)および職員(患者B)の合計2名が結核と診断され、北九州市保健所に届出がありました。

	種別	年代	性別	届出日	治療状況等
患者A	入所者	80代	男性	5月27日	他疾患のため死亡
患者B	職員	40代	女性	6月25日	通院治療中

○令和7年7月から、当該高齢者施設の入所者・職員等の接触者(82名)を対象に接触者健康診断を実施したところ、11月19日(水)までに、14名(内訳:発病者5名、感染者9名)が結核と診断されました(※参考2、3)。

○接触の状況により、「結核集団感染事例」に該当する(※参考1)と判断し、厚生労働省に報告しました。

2 接触者健康診断の実施状況(令和7年11月19日時点)

対象者	結 果		
	結核 発病者	結核 感染者	合計
82 名	5 名	9 名	14 名

※なお、上記の発病者は、結核専門病院等において適切な治療を受けており、今後これらの患者から周囲に感染させることはありません。また、感染者については、発症していないため、周囲に感染させることはありません。

3 結核患者の状況

(1)発病者:5名

内訳:入所者 4名(女性:4名)

職 員 1名(女性:1名)

	種別	年代	性別	届出日	治療状況等
1	職員	30代	女性	7月28日	通院治療中
2	入所者	90代	女性	8月1日	肺結核のため死亡
3	入所者	90代	女性	8月22日	入院治療中
4	入所者	90代	女性	8月25日	入院治療中
5	入所者	90代	女性	9月4日	通院治療中

(2)感染者:9名

内訳:入所者6名(男性:2名、女性:4名)

職 員3名(男性:1名、女性2名)

入所者

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
患者数	0	0	0	0	0	2	0	4

職員

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
患者数	0	0	0	1	1	1	0	0

4 行政対応

- ① 発病者および感染者に対しては、適切な診療を受けるよう指導。
- ② 対象者に対し、計画的に接触者健康診断(※参考2)を実施。
- ③ 当該高齢者施設に対し、結核の早期発見に努めるよう指導。
- ④ 市民に対して引き続き、結核に関する啓発を行う。

5 市内での結核集団感染事例

平成31年(令和元年)	2件(高齢者施設、職場等)
令和2年	1件(家族等)
令和4年	1件(医療機関)
令和6年	1件(学校)
令和7年	1件(本件)

6 結核患者の北九州市への届出状況 (単位:人)

(令和7年11月13日現在)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
届出件数	177	205	164	164	215	155 (本件含む)

※集団発生事例を報告することにより、集団施設等での感染予防の徹底をお願いするものです。

- 患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 本市においては、別添「結核について」のとおり市民の皆様へ感染防止を呼びかけています。報道各位におかれても、別添の内容の周知にご協力いただきますようお願いいたします。

【予防のポイント】 別添参照

【参考1】結核の集団発生の定義について

同一感染源が2家族以上にまたがり、20人以上に感染させた場合をいう(発病者1人を6人の感染者に相当するものとして感染者数を計算する)。

【参考2】接触者健診について

接触者健診は、患者との最終接触日から3ヵ月後以降に結核菌の感染有無を調べる血液検査(IGRA検査)や結核の発病を調べる胸部エックス線検査などを行う。

【感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き(改訂第6版)】に準ずる】

【参考3】用語の定義について(感染と発病)

「感染」とは、吸い込んだ結核菌が肺に定着した状態をいう。結核菌が体内にあっても、特に悪い影響を与えていない状態で、他の人への感染性もない。

「発病」とは、結核菌が体内で増えて病気を引き起こした状態をいう。発病初期は、咳や痰の中に結核菌は出ないが、結核の進行に伴い、咳や痰の中に結核菌が排菌され、排菌量が増えると他の人にも感染させるようになる。

《結核について》

結核は、医療の進歩等により、「薬を飲めば治る病気」になりましたが、今でも全国で年間10,000人以上が結核と診断されています。

早めに結核と分かれば、早期の治療で重症化を防ぎ、また、大切な家族や職場等への感染の拡大を防ぐことができます。



早期発見するために「長引く咳は、赤信号」

- せきや痰など上記の症状が2週間以上続くときは、内科(専門は呼吸器科)を受診し、胸部エックス線検査を受けましょう。
- せき、くしゃみが出だしたら、周囲にうつさないためにマスクを着用しましょう。

➤ 結核とは

結核は、結核菌という細菌が体の中に入ることによって起こる病気です。

結核菌に感染していても、多くの人は結核を発症しません。結核菌に感染した人のうち、結核を発症する人は約5~10%です。しかし、身体の抵抗力が落ちている人では、結核を発症するリスクが高くなります。

➤ 症状

せき、痰、発熱、体のだるさ、寝汗、胸の痛み、体重減少などが主な症状です。風邪の症状に似ていますが、風邪との違いは症状が数週間続き、治ったと思ったらまた繰り返すことです。ただし、高齢者の方は、症状が出にくい場合がありますので、全身状態の注意深い観察が重要です。重症化すると周りの人にうつしてしまう可能性もありますし、場合によっては死に至ることもあります。

また、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要です。

➤ 感染経路

痰(たん)の中に結核菌が出るようになった結核患者がせきやくしゃみをする、しぶきが飛び散ります。このしぶきに含まれる水分が蒸発すると結核菌が空中に浮遊するようになります、それを吸い込むことによって感染の機会が生じます。結核菌を吸い込んで鼻やのど、気管支で結核菌が止まれば感染しません。感染は、菌が肺にたどり着き、そこで増殖してはじめて起こります。結核に感染しても必ず発病するわけではなく、通常は免疫力が結核菌の増殖を抑え込みます。増殖を抑えきれなくなると、結核になります。しかし、結核菌に感染して発病するのは10人に1人から2人程度といわれています。

➤ 予防のポイント

- BCG ワクチンを接種する
BCG は発病率を抑え、重症化を防ぐためのワクチンです。
BCG 接種は、小児の結核性髄膜炎や粟粒結核の発病防止に有効であるといわれています。乳幼児は1歳までに接種を受けましょう。BCG 接種によって発病が予防でき、もし発病しても重症化しないとの報告があります。
- 抵抗力をつけましょう
十分な睡眠、規則正しい生活、適度な運動、バランスのとれた食事等、健康的な生活習慣を身につけ、体調を整えていれば感染や発病を防ぐことができます。
- 年に1回は、胸部エックス線検査を受けましょう
職場の定期健康診断や市が実施している結核・肺がん検診などを受けましょう。
特に80歳以上の結核患者が多いため、自覚症状がなくても受診しましょう。